

呉工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	日本語表現力基礎	
科目基礎情報							
科目番号		0158		科目区分		一般 / 選択必修	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		履修単位: 1	
開設学科		電気情報工学科		対象学年		3	
開設期		前期		週時間数		2	
教科書/教材		『テスト式国語常識の総演習』（京都書房）ほかプリント類					
担当教員		石本 百合子					
到達目標							
1. 漢字・仮名遣いなどが正しく使えること。 2. 慣用句・ことわざ・故事成語などが正しく使えること。 3. 韻文・文学史・文法の基礎的事項を身につける。 4. さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけること。 5. 実用的な文章を正しく書けるようにすること。 6. 文章の展開や、スピーチのこつを身につけること。 7. 社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書けるようになること。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることが適切にできる		さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることができる		さまざまな文章を推敲できる知識と能力を身につけることができない	
評価項目2		実用的な文章を正しく書くことが適切にできる		実用的な文章を正しく書くことができる		実用的な文章を正しく書くことができない	
評価項目3		社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことが適切にできる		社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことができる		社会人として必要な文章などの表現力がルールに従って書くことができない	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要		日本語を読む、書く、聞く、話すという四つの能力を身につけることは、人間力の形成のために必要である。それらの基礎能力、とりわけ語彙能力と文章表現能力の向上を目指すことを目的とする。					
授業の進め方・方法		問題演習を基本とする。適宜プリント等の課題提出も課す。					
注意点		積極的な授業参加、授業態度、普段の課題への取り組みを重視する。授業で進めるテキスト範囲の半分は宿題とし、毎週テキストを回収して評価する。また、新型コロナウイルスの影響により、授業内容を一部変更する可能性がある。					
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、「国語常識の総演習」第1回		1. 「国語常識の総演習」の演習（前半） 漢字を読む力、書く力、語彙力、文章表現・韻文・文学史、文法といった、国語表現に必要な基礎学力を体得する。		
		2週	「国語常識の総演習」第2回				
		3週	「国語常識の総演習」第3回				
		4週	「国語常識の総演習」第4回				
		5週	「国語常識の総演習」第5回				
		6週	「国語常識の総演習」第6回		2. 韻文の創作、正しい敬語を用いた手紙の書き方にも取り組みたい。		
		7週	中間試験				
		8週	答案返却・解答説明,「国語常識の総演習」第7回		3. 「国語常識の総演習」の演習（後半） 漢字を読む力、書く力、語彙力、文章表現・韻文・文学史、文法といった、国語表現に必要な基礎学力を体得する。		
	2ndQ	9週	「国語常識の総演習」第8回				
		10週	「国語常識の総演習」第9回				
		11週	「国語常識の総演習」第10回				
		12週	「国語常識の総演習」第11回				
		13週	「国語常識の総演習」第12回				
		14週	「国語常識の総演習」（総まとめ）				
		15週	期末試験				
		16週	答案返却・解答説明 自己PR書他				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。		3	
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べることができる。		3	
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。		3	

				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	3	
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	3	
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	3	
				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	3	
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	3	
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	0	0	0	30	0	100
基礎的能力	70	0	0	0	30	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0